

使ってみよう こんにちは言葉

ここまでは、分かりますか？(確認)

~さんと同じで(ちがって)、私の意見は~です。(比かく)

~さんの意見は、~ですよ。(確認)

~さんの意見で、私は~だという

校訓

か や す  
し さ こ  
こ し や  
く し く かに

薩南新聞 12月  
さつませんたい

Satsumasendai City Public Relations

12

December.2019  
vol.364

私たちが描く  
孝老のために  
夢をカタチに





# 私たちが描く 未来のために

～本市の子どもたちの学力・学習状況～

■問合先／本庁学校教育課指導グループ(内線 5332)

**学力の現状と課題**

子どもたちには、本市で教育を受ける中で、「ふるさとを愛し」「心豊かで」「たくましい」人材へと成長し、将来の夢に向かってほしいと願っています。

今回は本市の学力・学習状況と学力向上への取り組み、本市の特色ある教育についてお知らせします。

### ① 鹿児島県学習定着度調査

小学5年生と中学1・2年生を対象に、県教育委員会が1月に実施しています。(小学校4教科、中学校5教科)

平成30年の調査結果は、小学5年生が3教科(国語・算数・理科)で県平均を上回り、中学1・2年生は、1年生の理科と英語で県平均を上回りましたが、それ以外の教科は県平均を下回っており、学力の定着を図る必要があります。

### ② 標準学力検査(NRT)

小学2年生から中学3年生までの生徒を対象に、4月に実施しています。

学年や教科によって差があるものの、本市の小・中学生は全国とほぼ同等といえます。ただし、アンダーアチーバー(本来もっている能力に対して、学力の定着が十分でない児童生徒)が2割弱おり、個人の能力に応じた指導がさらに重要で

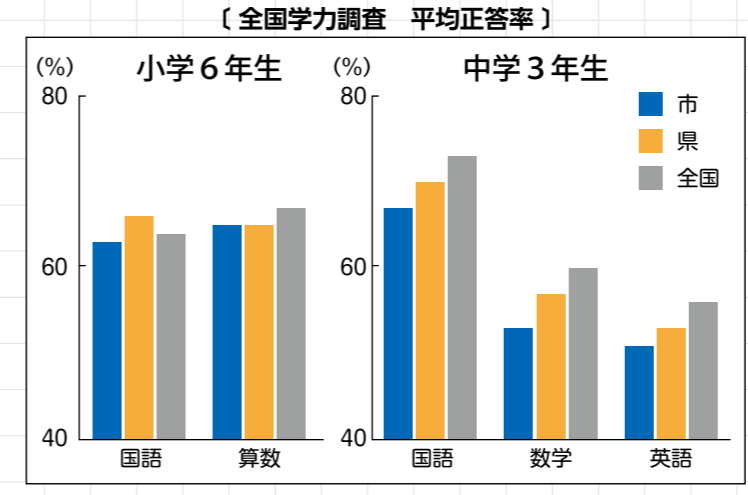
あると考えています。

### ③ 全国学力・学習状況調査

小学6年生と中学3年生を対象に、文部科学省が4月に実施しています。

小学6年生は、国語、算数においておむね全国平均同等の結果でした。中学3年生は、国語、数学、英語ともに全国平均を下回りました。

誤答傾向を分析すると、小・中学生ともに、複数の資料を基に考察する活用力や、長文を読み取る読解力に課題があります。



### 【全国学習状況調査】

この調査では、子どもたちの学習の関心や意欲、生活の状況についても調査しています。その中で本市の子どもたちの特徴的なものが、次の項目です。数値はそれぞれの項目に対して「当てはまる」と答えた割合です。

学校に行くのは楽しいですか。			
小学6年生		中学3年生	
全国	市	全国	市
53.9%	62.6%	45.7%	54.3%
将来の夢や目標を持っていますか。			
小学6年生		中学3年生	
全国	市	全国	市
65.9%	69.2%	44.9%	48.3%
自分には、良いところがあると思いますか。			
小学6年生		中学3年生	
全国	市	全国	市
43.1%	35.9%	31.3%	27.1%

これらのことから、本市では「学校に行くのは楽しいと感じ、夢や目標を持っている」子どもたちが多いことが分かります。

しかし、「自分には良いところがある」と思っている子どもたちは少ないようです。また、自分の良さを認め、自分を肯定的に捉える子どもほど教科の平均正答率が高いという分析結果も出ています。

### 英語教育の充実

#### 【EST(英語指導支援員)】



本市においては、全国に先行して昨年度から小学校での英語科の授業を実施しています。小学校の学級担任をサポートしながら、専門的な英語指導の支援を行うEST(イングリッシュサポートティーチャー・英語指導支援員)を採用し、市内の全小学校で学級担任やALT(外国語指導助手)と協同で授業を行っています。

子どもたちからは、「本物の英語を聞いて勉強になる」「外国の文化が分かりやすく説明してくれる」などの感想が寄せられています。

#### 【中学校英語発表会】

10月に国際交流センターで各中学校の代表生徒による英語発表会を開催しています。

1年生はスキット(寸劇)、2年生は暗唱、3年生は弁論(自作の英語弁論)という発表内容で、どの生徒もジェスチャーを交えながら、日頃の英語学習の成果を発揮し、表現豊かに堂々としたスピーチを披露しています。



#### 【英語サマーキャンプ@寺E】

夏休みに少年自然の家でALTと2泊3日の英語サマーキャンプを行っています。英語中心の生活を送り、外国の文化に対する理解を深めるとともに、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する活動となっています。

参加した子どもたちからは、「ALTに自分の英語が通じた時はうれしかった」などの声が寄せられ、英語の学習意欲を高める機会につながっています。



学びの楽しさや喜びを味わう授業を目指して、授業改善を行っています。

新学習指導要領では「どのように学ぶのか」が重視され、教員が「何を教えるか」という観点だけではなく「児童生徒が学びを通してどのような力をつけ、それをどのように活用するか」が重要となります。また、「知識の習得」を中心とした学習から「知識の活用」を目指すスタイルへと転換が迫られています。

学校では、以下のような10の提案を基礎として、具体的な授業の改善に取り組んでいます。

### 薩摩川内市 本物の授業を創る10の提案(概要)

- 1 どんな力をつけさせたいのか、何をどのように学ばせるのか、目標を明確にした授業を行う。
- 2 子どもが学びたいと思うような魅力ある「学習問題やめあて」を子どもと創る。
- 3 子どもが「分かった。できた。」と考える授業を創る。
- 4 子どもが思い切り活動する授業を創る。
- 5 自分の思いを伝え、友達を認め、共に磨き、高め合う授業を創る。
- 6 子どもが「がんばった。工夫した。発見した。」と言える授業を創る。
- 7 ペアやグループ活動を生かして、全員が発表できる授業を行う。
- 8 教師が教卓から離れて、子どもの近くに寄り添い、子どもの様子や思いを感じ取ることを大切に授業を行う。
- 9 めあてとまとめをつなげて、分かったことや学んだことを振り返る授業を行う。
- 10 授業を終えたら板書を教室の後ろから見て、自分の指導を振り返る。

Check!

■小中一貫教育の推進

本市では、平成21年度から文部科学省の「教育課程特例校」の承認を受け、全中学校区において、小中一貫教育を行っています。今年度は「施設二体型」小中一貫校である「東郷学園義務教育学校」を開校しました。

小中一貫教育には次のような狙いがあります。

- ・子どもたちにとって  
小学生は、中学生に憧れをもち、中学校生活への意欲を高める。
- ・中学生は、小学生への優しさや思いやりを持ち、リーダーシップ力を高め、自分への自信を持たせる。

・教師にとって  
相互に協力し学び合うことで、自らの教育観をより豊かにし、指導力の向上を図る。

各学校では、学校が設定する学校教育目標を実現するために、子どもたちの姿や地域の実態などを踏まえた教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していく「カリキュラム・マネジメント」の実現が求められています。

本市では、9年間を見通して子どもを育てる小中一貫教育の良さを取り入れながら教育課程を編成したり、交流活動や授業交流を実施しています。

【児童生徒間の交流活動】

中学校区ごとに小学生同士の合同授業や小学生と中学生の交流活動を意図的・計画的に取り組んでいます。



■ICT活用およびプログラミング教育の推進

【情報活用能力の向上に向けて】

本市全ての学校におけるパソコン室のノート型パソコンをタブレット型パソコンに整備することで、子どもの情報活用能力を高めることができるようにしています。また、授業では、学習効果を高めるために、テレビ会議システムや学習に役立つコンテンツ集（ジーストリーム）を取り入れるなど、ICTの整備や改善を図っています。



【プログラミングによる論理的思考学習】

令和2年度から小学校においてプログラミング教育が導入されます。これは、子どもがプログラミングを体験しながら、コンピューターに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考を身に付けるための学習活動です。

本市では、プログラミングの楽しさや面白さを感じてもらうために、薩摩川内市企業連携協議会と連携し、自分でロボットを組み立てたり、そのロボットをプログラミングし、自由に動かしたりする実践的な体験をする機会を提供する事業を行っています。

本市の特色ある取り組み

本市は、「ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる薩摩川内のひとづくり」を目標に、「ふるさと意識」を高めつつ、心身ともに健康で、確かな学力と豊かな心を身に付けた子どもの育成に努め、未来をたくましく生きる力を育む教育を推進しています。

■甌アイランドウォッチング

本土地域の小学4年生が、甌島を訪れ、美しい自然や伝統文化に触れる活動を行っています。甌島を訪問することで「甌島もわがふるさと」というふるさと観を育んでいます。



■薩摩川内元気塾

卒業生を含め県内外で活躍するさまざまな方々による講演会を聴いたり、実技指導を受けたりすることで子どもたちは、自分の将来を見つめ、夢や希望を膨らませる良い機会になっています。

■小学校綱引競技大会

市内の6年生全児童が、一堂に会し、綱引競技を通して、粘り強い体力や気力を培うとともに、友達同士の絆を深めています。



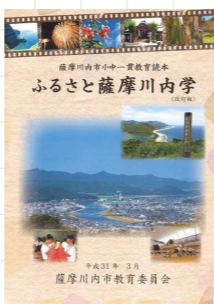
■学校フッ化物洗口

市内全ての小・中・義務教育学校で、フッ化物洗口を実施し、むし歯予防に努めています。フッ化物洗口とは、フッ化物洗口液を使って、1週間に1回30秒間ブクブクうがいをするものです。1人当たりのむし歯の本数が、年々少しずつ減少しています。



子どもたちの自己肯定感を高めるために、学校や家庭、地域のそれぞれの場で子どものがんばりを認め、努力したことを具体的に褒めることを通して、自分の良さに気づき、自信を持って意欲的に取り組む子どもを育てていきましょう。

■ふるさと・コミュニケーション科



「ふるさと・コミュニケーション科」では、ふるさとの自然や歴史、文化、人々の営みを横断的・総合的に学ぶことを通して、ふるさとを知り、ふるさとを愛する心を養います。本市では、「ふるさと薩摩川内学」という小中一貫教育読本を作成・活用しています。

お互いを大切にできる子どもへ  
自己肯定感の高い子どもは他人を尊重しコミュニケーション能力が高く、学力も高い傾向にあるといわれます。さらに、自分と相手を比較することが少なくプラス思考になれるため、いじめ

地域

ボランティア活動やいろいろな世代の方と交流をさせましょう。子どもたちは、それぞれの人の優しさや良さ、多様な考え方を学ぶことができます。

家庭

家事を分担し、お手伝いなど責任を持たせましょう。子どもたちは、家族の一員としての自覚や自分が必要とされていることへの自己有用感を育むことができます。

学校

解けなかった問題が解けるようになるまで、何回もチャレンジする「100点チャレンジ」の取り組みを行っています。そうすることで、子どもたちに「分かった」「できた」という自信や、「自分もやればできる」という自己肯定感を育むことができます。

や不登校につながりにくい効果もあります。本市では、子どもたちが自分自身の良さに気付くことのできる教育を進め、安心して楽しく学校生活を送れるように、次のような取り組みも行っていきます。

●いじめのない学校づくりの日

毎月1日を「薩摩川内いじめのない学校づくりの日」と定め、全ての子どもに「いじめアンケート」を実施しています。気になる子どもがいれば速やかに聞き取りや教育相談を行い解決を図っています。

●心の教室相談員やSSW（スクールソーシャルワーカー）の配置や適応指導教室（スマイルルーム）の開設

不登校の子どもや保護者に対し、日常的に親身になって心のケアができるようスクールソーシャルワーカーなどの専門スタッフを配置したり、スマイルルームを開設したりしています。

いじめや不登校の要因を1件でも多く発見し、一人一人の教職員が、自分の学校、担当する学級でもいじめが発生し得るという危機意識を持ち、未然防止に努めていきます。

今後とも行政と学校、家庭、地域社会がしっかりと連携し、本市の子どもたちの健全育成に取り組んでいきます。



令和元年度薩摩川内市「子ども議会」

### これからの薩摩川内市を 考える私たちの提言

各提言から主なものを抜粋しています

**① 人が集まる拠点づくり委員会**

- ・ 薩摩川内市・薩摩川内市への各種イベントの企画と実施
- ・ 本市をもっと情報発信すること
- ・ 小中高一貫の学校をつくること

**② 安心して暮らせる 防災体制づくり委員会**

- ・ 土砂崩れの起きそうなところをコンクリートで固めること
- ・ 側溝のふたを新しく設置し、道路との境に目立つ印を付けること
- ・ 避難場所を検討し、対策を取る

**③ 働きたいと思える 環境づくり委員会**

- ・ お互いの良いところを伝え合うシニアタイムの実施
- ・ 仕事の体験や見学ができる職種を増やすこと
- ・ 必要とされているお店を必要としている人自身でセルフプロデュースすること

**④ 買い物しやすい まちづくり委員会**

- ・ 移動販売車を増やし、甌島にも同じ商品を届けるようにすること
- ・ 移動販売車のスケジュールの広報掲載や防災無線での放送
- ・ 市のお店で使えるポイントカードや携帯アプリの作成

**⑤ 交通の便がよい まちづくり委員会**

- ・ バス停や駅の増設、学生やお年寄りの運賃無料化
- ・ 利用者の生活に歩み寄った連搬スケジュールの作成
- ・ セブウェイが走れるまちの推進

**⑥ シティセールス対策委員会**

- ・ 地元に関する事業の増加
- ・ 本市出身の芸能人にテレビ番組でまちを紹介してもらうこと
- ・ ナンバーワンという概念を逆手にとってワーストワンをつくること

令和元年度子ども議会参加者名簿

学校	氏名	学年	氏名	学年	氏名	学年
川内北	高木 凛	3	島 彩華	3	とみなが 菜々美	3
川内中央	福田 陽花	3	わたなべ げん 玄	3	しもとの 下園 絢音	3
川内南	藤田 梨沙	3	坊野 咲来	2	ながい 甲之介	3
水引	竹田 就太	3	こだま 兒玉 そあ	3	まつした 藍斗	2
平成	木曾 宝華	3	きこ 俊一郎	3	はらだ 夏津樹	3
樋脇	片平 士電	3	よこやま 楓 加	3	やまき 山崎 太陽	2
入来	中島 彩夏	3	ありがわ 舞	3	せきもと 将大	2
東郷学園	森 千乃	3	みすみ 捷太朗	3	こばら 来夢	3
祁答院	脇 皓大	3	くみ 涼華	3	はやし 未裕	3
里	是枝 伊吹	3	ひがしやま 日笠山 渚	3	ひがしやま 日笠山 渉	2
上甌	濱邊 香乃	3	なか 夢愛	1	はら まなみ	1
海陽	大毛 かや	3	たに 琴弥	2	ふくもと 福元 麻友	3
海星	東 稔仁	3	まえだ 夏海	3	ふらうえ 彩花	3

生徒たちからの提言が終了した後、岩切市長からは、「若い人たちが斬新な意見をたくさんいただいてありがたい。各部署に持ち帰って検討したい」との答弁と、「この議会に参加したことを良い機会として、また若い力で頑張ってもらいたい」との激励の言葉がありました。

中島さんは、「これからも若い世代の私たちが地域に参加することも含めて関心を持つことが大事だと感じました」と話してくれました。

この「子ども議会」は、若い視点での純粋な意見により、いま一度市政を見つめ直す機会となり、生徒たちにとって、もともと大きなそして貴重な体験になったようです。

これからの薩摩川内市を担ってくれる皆さんが若い力を最大限に発揮して、大きく羽ばたきながら地域やまちづくりのために協力してくれる未来を僕は確信しました。

生徒たちは、13中学校の生徒会役員3人ずつの計39人。中学校ごとに構成された6つのグループに分かれて、5月からテーマを決定し勉強会を開催するなど着々と準備を進めてきたとのこと。

前日には、少年自然の家に集まり、交流を深めながら、最終的な提言内容の練り上げ



今回は、8月23日(金)に「子ども議会」が開催されるという情報が入ってきたので、調べてみました。

「子ども議会」は、旧川内市で、平成15年度まで開催されていたそうだけど、合併してからは初めてで、実に16年ぶりだそう。

今回の「子ども議会」は、リーダーとしての自覚と社会への参画意識、地域活動やまちづくりについて、自ら進んで参加する姿勢を養うことなどを目的に、中学生たちが自分たちの思いや考えを市に対して提言を行う形式で、市教育委員会と川内青年会議所が共催して開催。市内の全公立中学校代表の生徒が参加するんだって。これは、ぜひ取材してみたい。

いざ！キジカケル！

グループ名	構成中学校	テーマ
グループ1	里・上甌・海陽中学校	人が集まる拠点づくり
グループ2	海星・樋脇中学校	安心して暮らせる防災体制づくり
グループ3	川内中央・平成中学校	働きたいと思える環境づくり
グループ4	入来・川内北中学校	買い物しやすいまちづくり
グループ5	東郷学園、水引中学校	交通の便がよいまちづくり
グループ6	川内南・祁答院中学校	シティセールス対策

各グループのテーマは次の6つです。

や発表練習を行いました。

皆さんが知りたいことや紹介したいことなどがありましたら、情報をお寄せください。キジカケルが取材に伺います。

問合せ／本庁広報室広聴広報グループ(内線632)



取材・協力 川内青年会議所

議場の雰囲気は、本物の議会そのもので、張り詰めた空気が漂っていました。

中島議長が、「薩摩川内市子ども議会を開会します」と開会宣言。その後、各委員会の委員長から、グループのこれまでの話し合いの経過や背景とともに提言が述べられました。



議員席には、緊張しながらも真剣な表情の生徒たち、答弁席には市長、副市長、教育長と各部の部長たち。



中島彩夏議長

そして当日、市議会議場に39人が集結し、入来中学校3年生の中島彩夏さんを議長に、ついに「子ども議会」は開会されました。

